

時間割コード	774012	開講区分	第2学期
曜日・時間	火曜日・5時限		
開講科目名	小児発達評価・療育学	定員	
開講科目名(英)	Assessment of and Intervention to Developmental Disorders	単位数	2単位
場 所	大阪校講義室、金沢校講義室、福井校講義室	年次	1年
担当教員	大井 学、平谷美智夫、荒木友希子、吉村優子(金沢校)、上田 功(大阪校)、清水 聡、藤岡徹、藤沢隆史(福井校)	授業形態	講義(オムニバス方式)
講義題目	小児発達評価・療育学		
開講言語	日本語		
授業の目的	発達障害のある子どもの心を理解し支援するためには、その複雑な性格にかんがみて多方面から、発達と障害を評価・支援する枠組みを習得する必要がある。本授業では、評価、診断、介入、療育にかかわる基礎的な知識から最新の知見までを学ぶ。		
学習目標	構音を含むコミュニケーションの評価法、医療の場での診断法、各種療育プログラムの手法を獲得する。		
授業計画	<p>(大井 学/4回)  言語行為、会話の含意、文脈の利用などにかかわる臨床語用論ならびにその背景基盤を構成する心の理論、中枢性統合、実行機能、支援方法としての臨床語用論的アプローチについて学ぶ。</p> <p>(吉村 優子/2回)  乳幼児期のコミュニケーションの発達過程を概説し、発達障害児の行動的特性の評価、介入などについて科学的知見に触れながら学ぶ。</p> <p>(平谷美智夫/1回)  自閉症スペクトラム障害(ASD)・学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)、3疾患の相互関係と医療・療育支援について概説する。</p> <p>(清水 聡/1回)  TEACCH プログラム、応用行動分析(ABA)、PECS、ソーシャル・ナラティブなど発達障害に対する主な療育・介入・支援の手法について概説する。</p> <p>(藤岡徹/1回)  臨床場面での例をあげながら、発達障害の評価・支援・配慮について概説する。</p> <p>(藤沢隆史/1回)  発達障害における環境的要因について概観し、生活習慣や家庭環境(家族関係・社会経済状況)、環境化学物質などの評価法について学ぶ。</p> <p>(荒木友希子/3回)  心理療法のひとつである認知行動療法を取り上げ、その基盤となる学習理論、および、基礎的知見の臨床的応用について学ぶ。</p> <p>(上田 功/2回)  幼児の構音発達に対して、言語学・音声学からのアプローチを紹介し、さらに機能性構音障害の分析方法を検討する。構音障害のメカニズムを適切に理解することによって、社会のなかの構音障害者について考える機会としたい。</p>		
	第1回 (大井)臨床語用論概説(言語行為)		
	第2回 (大井)臨床語用論概説(会話および文脈利用)		
	第3回 (大井)高機能 ASD にともなう語用障害概説		
	第4回 (大井)語用障害のメカニズム:背景基盤、創発、補償		
	第5回 (吉村)乳幼児の言語・社会性・コミュニケーションの発達		
	第6回 (吉村)発達障害における行動特性の評価・脳科学研究について		
	第7回 (平谷)発達障害児に見られる多彩な臨床症状とその支援		
	第8回 (清水)発達障害に対する主な療育・介入・支援の方法について		
	第9回 (藤岡)発達障害の評価・診断・介入・支援の概要について		

	第 10 回 (藤澤) 発達障害における環境的要因とその評価
	第 11 回 (荒木) 認知行動療法の特徴と基礎原理
	第 12 回 (荒木) レスポンデント条件づけの基礎と応用
	第 13 回 (荒木) オペラント条件づけの基礎と応用
	第 14 回 (上田) 幼児の構音発達のメカニズム
	第 15 回 (上田) 構音障害の音韻分析
授業外における学習	・E-Learning 教材(授業動画)視聴などで Web 学習システム(CLE)を活用するので、各自利用方法に習熟しておくこと。
教科書・参考書等	授業中に指示、または資料を配付する。
成績評価	出席回数が 2/3 以上に達した学生に対して、講義への参加・聴講態度や理解度・課題提出状況などを元に総合的に判断し、一定の基準に達した者に対して、2単位を認定する。
コメント	・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること。